

高齢の交通弱者に新たな選択肢を ～生活における負担を減らすベロタクシー導入の提案～

A New Option for the Elderly and Transportationally Disadvantaged ～Proposal to Introduce Velotaxis to Reduce Burdens in Daily Life～

中山ゼミ Team VELO
岡本珠梨 楠井沙織 山村南実 横井ひかる
指導教員 中山雅司
創価大学 法学部 法律学科 中山ゼミナール

キーワード：交通弱者、高齢者、地域コミュニティ、見守り事業、ベロタクシー

1. はじめに

八王子市の課題として「交通弱者」がいることがあげられる。アクセスが便利な地域に住んでいるか、住んでいないかによって、格差が生じているのだ。また、市内の高齢化によりコミュニティの弱体化も課題の一つだ。そこで、私たちは交通弱者とコミュニティの弱体化に焦点をあて、暮らしやすさの向上を目指した提案をする。また、八王子の特徴である学生の多さを活かし、交通弱者の人々のニーズに、若者のニーズを組み合わせた多角的な視点での問題解決を図る。

2. 現状分析

八王子市の地形は盆地状で丘陵地帯に囲まれていることから、急な坂の多い街であるということが出来る(八王子市 2022)。そのため、八王子市内では、路線バスをはじめとした交通網が発達している。だが、一部の地域では、交通機関を利用するまでにかかる時間が長くなってしまふなどの事情を抱える「交通弱者」も存在する。そして、交通弱者に当てはまる人の多くが高齢者なのだ。この点から、高齢化が進行すると、交通弱者が増えていくと予想される。このような現状分析を通し、私たちのチームでは、2つの調査を行った。

【高齢者を対象としたスーパーマーケットの立地に関するインタビュー】

今回、八王子市西部にあるスーパーマーケットに買い物に来ていた高齢者にインタビューを行った。

自転車や徒歩が移動手段である高齢者は、「立地が悪く、買い物の負担がとても大きい」と回答した。また同調査で、「商業施設までの送迎サービスがあったら利用するか」を尋ねたところ、「利用したい」が過半数を占めた。また、市内の公共施設へのアクセスにも送迎サービスを希望する高齢者がいることもわかった。以上の調査から、新たな移動手段の提供により八王子市内における交通弱者のニーズに応えることができるのではないかと考えた。

【八王子市内に多くの店舗がある某スーパーマーケットを運営する企業へのインタビュー】

今回、ある某スーパーマーケットの経営を行う企業へのインタビューを行うことができた。取材をした企業は、今後、八王子では新たに新店を出す予定はないと回答した。理由として、「商圏内の人口(世帯数)が少なく、採算が合わない」ことを挙げていた。だが、「買い物する場所が遠くて困っている」という声が届くこともあるという。移動スーパーや宅配といったサービスの提供の依頼があるそうだ。このことから、一部の高齢の交通弱者にとって、移動が大きな負担となっていることが分かる。以上の調査から、新たな移動手段を提供することは、交通弱者の暮らしやすさ向上に繋がるのではないかと考えた。

3. 提案

私たちは今回、ドイツで開発された「電動自転車タクシー：ベロタクシー(図1)を参考とした高齢者のための送迎サービス」の提案を行う。目的は、

「交通弱者のニーズに応えること」であり、交通不便地域へのペロタクシーの実験的導入を目指す。

図1 (福島県観光物産交流協会 2021)

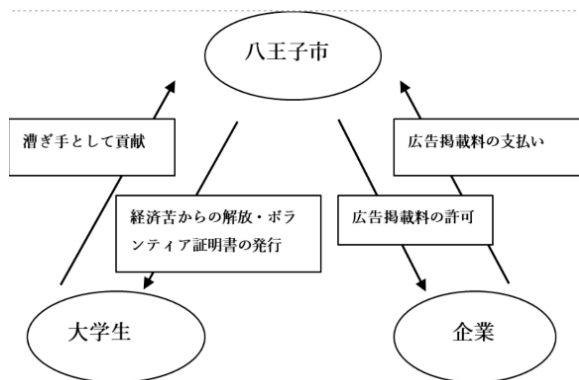


八王子市内は比較的交通網も発達しているが、少数の交通弱者がいることも事実だ(八王子市 2017)。一般には、自家用車やバスが移動手段として重宝されている。だが、高齢の市民にとって車の運転は昨今ハードルが高くなっているため、利用が難しい場合がある。また、バスは時間帯によって着席ができないこともある。重い荷物を抱えての乗車は、高齢の市民にとっての大きな負担ともなりうるのだ。

ペロタクシーは、タクシーと同じく「予約」が可能となる。移動時もバスとは違い、必ず着席ができるため、身体的負担を和らげることが可能だ。

本提案は、図2のようなアクターが協力して実現化することを予定している。ペロタクシーは、全面に広告を掲載することができる。そのため、資金面は、企業からの広告料で費用を賄おうと考えている。ペロタクシーと呼ばれる新たな選択肢を用意することで、普段の移動における負担を軽減させることができるのではないだろうか。

図2 (自作)



4. 提案による4つの副次的効果

1つ目は、「地域コミュニティの活性化」である。今回、高齢者のための送迎サービスを若者が行うことによって、高齢者と若者をつなぐ新たな場を設けることができる。そして今回の事業を、見守り事業として送迎サービスを行うことで、孤独死の防止が見込まれる。現在、日本では高齢者の孤独死が問題視されている。孤独死の原因の多くは、核家族化の進行など、地域コミュニティとのかかわりの減少があることから、コミュニティの構築の重要性が分かる。方法としては、毎回ペロタクシーを使用するときに乗車する高齢者の名前を記録し、月に1度乗車履歴を検証して、履歴のない人のお宅へ安否確認をする。結果として、地域コミュニティが活性化され、孤独死防止に繋がると予想される。

2つ目は、「若者の経済苦からの解放」である。今回の事業は、若者の漕ぎ手が必要不可欠である。経済苦を抱える大学生や若者を有償ボランティアとして起用することによって、若者の経済的な問題の手助けができると予想される。

3つ目は、「若者への社会貢献の機会の提供」である。今回の事業に参加した若者には、ボランティア証明書を発行する。この経験は一つの社会貢献であり、若者のインセンティブの向上が予想される。

5. 参考文献

- ・八王子市ホームページ 「八王子市の概要」(閲覧日:2022年10月1日) <https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei>
- ・平成29年 八王子市公共交通計画(閲覧日:2022年10月1日) https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/001/006/001/003/p021530_d/fil/honpen.pdf
- ・ふくしまほんものの旅(閲覧日:2022年10月3日) <https://www.tif.ne.jp/hontabi/2021/spring/info.html?info=1>
- ・NPO 法人五環生活(閲覧日:2022年10月5日) <http://gokan-seikatsu.jp/benrintak>